



平成28年度 横浜市立宮谷小学校 学校だより 10月号

みやがや

＜学校教育目標＞

響き合う豊かな学びの中で自分を見つめ互いに思いやる子を育てます

【知】 学び合う楽しさを知り、問題解決に向け主体的に取り組む子を育てます。【学び合い】

【徳】 社会や学校のきまりを守り、やさしく思いやりのある子を育てます。【思い合い】

【体】 お互いの生命と体を大切に、生涯を通してよりよく健康な生活ができる子を育てます。【気づき合い】

【公・開】さまざまな人々と豊かなかかわり合いを大切にしながら、わたしたちのまちに誇りをもって生活する子を育てます。

【かかわり合い】

宮谷小の伝統

学校長 奈良輪 孝雄

「あいさつは、宮谷小学校の伝統です。」

4年生以上の学級代表と委員会の委員長・計画運営委員が参加する代表委員会は、毎月開かれます。9月の代表委員会のテーマは、「あいさつ」でした。参加者の多くが、「あいさつは、宮谷小学校の伝統」と発言しているのです。宮谷小学校に対して愛校心を持ち、あいさつの重要性を認識している子どもたちになやかとたくましさを感じ嬉しくなりました。宮谷小学校には13の委員会があり、5・6年生がいずれかに所属し、学校生活をより楽しく豊かにしていく活動を行っています。その中の1つの人権委員会は、あいさついっぱい宮谷小学校にするために、9月27日から10月7日まであいさつ週間を設定しました。子どもたちが互いに議論し合い、より良い学校にするための具体案を計画し、実行しているのです。子どもたちは育っています。

「挨拶(あいさつ)」の漢字の語源は、禅宗の問答に由来しているようで、「挨」は心を開いて近づく、「拶」も同様に、迫る、近づくという意味があるそうです。人間関係を重視する茶道では、素直に挨拶ができることは、人間本来の姿であり、人間社会の秩序の基であるとの教えがあるとのこと。また、返事の「はい」は、拝むという漢字が語源で「拝」の心、拝み受け止めるのが本来の「はい」の意味だそうです(以上諸説あり)。

グローバル化の進展や人工知能の飛躍的な進化など、将来の予測が難しい社会を迎えます。その社会で生きていくためには、様々な能力が必要となりますが、その1つが「多様な集団における人間関係形成能力」です。他人と円滑に人間関係を構築する能力が今後ますます大切になります。社会に出てからも、目標は一人では達成できず、グループの中で同じ目標を共有し、協力する必要がでてきます。あいさつをきっかけとするコミュニケーション能力・人間関係形成能力が重要となるのです。

6月20日に行われた宮谷小学校子ども人権会議では、各クラスであいさつについて話し合いをしました。各クラスで出た意見が職員室前に掲示されています。「あいさつをされるとどんな気持ちになりますか。」の問いの回答を見てみると、次のような意見が多くありました。

- | | | | |
|------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 心が温かくなる。 | <input type="checkbox"/> とてもいい気持ちになる。 | <input type="checkbox"/> ほっとする。 | <input type="checkbox"/> 心がつながる。 |
| <input type="checkbox"/> 気持ちがよくなる。 | <input type="checkbox"/> 優しい気持ちになる。 | <input type="checkbox"/> 笑顔になる。 | <input type="checkbox"/> 元気になる。 |

宮谷小の子どもたちは、あいさつの大切さを体感しています。相手意識をしっかりもっている証拠です。「あいさつはした方がよい。しなくてはならない。」と知識で考えるのではなく、「あいさつすると気持ち良い。」という情意面を大切にしているところです。

校内でも、まちでも、家庭でもより良い人間関係の第一歩である「あいさつ」を今後も大切にしていける学校でありたいと思います。今月もよろしく願いいたします。

